



もんぶかくだいじんしょう  
文部科学大臣賞

# お米こめを作るつくの大変たいへんさ

しまねけんおくいずもちょうりつたかお  
島根県奥出雲町立高尾小学校六年

まつばらあやか  
松原 彩香

高尾小学校は稲作体験活動で収穫したお米を食味鑑定コンクールに出品し、三年連続で特別優秀賞を受賞しています。高尾小学校の稲作活動は、全校児童とリハビリテーション学院の学生さんと一緒に毎年行っています。

田植えでは、苗を三、四本ずつ植えていきます。田植えをした田んぼはきれいですが、しばらくすると小さな草が一面に生えてきます。だから田車押しをしてこの小さい草を取り除きます。草を抜くだけでなく、土をかき混ぜることで土の中にたまった悪い空気を取り出すこともしています。この作業は本校では五、六年生しか体験しません。私にとっては今年で二回目になります。去年の活動でコツをつかんでいたのが簡単だと思っていたけど、今年やってみるとうまくいかず難しかったです。

田車押しをした田んぼは草がなくなっているけど、しばらくするとまた生えてきます。今度は田車を使わずに手で草を抜いていきます。簡単そうですが実際にやってみるととても困ってしまいます。草といっても稲に似ているからです。初めはどう区別しているのか私には分かりませんでした。稲によく似た雑草は稗ですが、この稲作体験活動を指導してくだ

さる藤原さんが、  
「稲と稗の区別の仕方は色だ。」

と教えてくださいました。この見分け方を教えてもらった後は、「稲と稗の違いは色だ」と何度も自分に言い聞かせ考えながら抜いていきました。

こうして苦勞して育った稲を九月に収穫します。全校児童にとって一番楽しみな時でもあります。怪我をしないように注意をしながら活動をし、刈った稲の全てがはでに干された時には「やったー」と大きな達成感と充実感がわいてきます。

しかし、私たちの活動はこれで終わった訳ではありません。天日で干した後に稲こぎをしてお米を選別します。うっすら白くて透明なお米を選んでいきます。米の選別はピンセットを使って選別していくので目が疲れます。根気もいります。この作業を二度繰り返してコンクールに出品します。出品してから結果がくるまでドキドキします。三年連続で同じ賞だったのでちよつと残念な気もしたけどやっぱりうれしかったです。私たちが受賞した特別優秀賞よりも上の賞があるので、どうしたらその賞が取れるのか考えてみたいです。

こうした貴重な体験は劇にして発表することもしました。二年に一度の発表劇で未来の農業について考えたことを五、六年生と担任の先生でシナリオを作り台詞にしました。未来の米作りは自然循環型の有機農法になると考え、この高尾の自然をいかに生かしていくかをテーマにしました。この劇は地域の方だけでなく多くの方に喜んでもらえました。米作りは大変だけど自慢できる仁多米です。